

1個の特殊金物、1個のキャップ、そして1本の内蔵鋼材が、**木製防護柵の利用可能性**を限りなく広げました。

ウッドレールのDNAを引継ぎ、進化させたのが**ウッドレールロング**です。この製品は、ホゾ部の代わりに特殊金物を使い、木製柱にはメッキ鋼材を内蔵。従来からの大きな課題であった**木製柱地際部の弱点**を克服させるとともに、柱部における従来型の**メッキ鉄製柵と同等の強度と耐久性**を実現させました。また、ガードレールと同じように土中打込みも可能で、設置場所を選ぶことなく施工できます。単なる「地域材の利用」にとどまらず、木製防護柵の高付加価値化・高度利用化にも貢献しています。

ウッドレールロング WRC2080-C2-E

(土中打込み設置例)



■ 打込み機による内蔵鋼材建柱

ガードレール打込み機を利用。車が入らない場所は、削岩機にアタッチメントを取付けて打込みます。



■ ブラケットの取付完了



■ ビーム取付完了



■ 化粧材取付中

内蔵鋼材はこの化粧材により完全に隠れてしまいます。



■ 完成

ウッドレールロング WRC2011-K

(コンクリート擁壁設置例)



■ 内蔵鋼材建柱

鋼製の防護柵柱の建込みと同じ要領。



■ 化粧材取付中

内蔵鋼材は溶融亜鉛メッキ処理のチャンネル材2本をH鋼形状に組合せているため、強度と耐久性は担保されています。



■ Eキャップ取付完了

この時点で内蔵鋼材は完全に隠れてしまいます。



■ 格子パネル取付中

格子パネルは工場で予め組立られています。



■ 完成